

ピチットによる創傷治癒効果検証試験

和泉達也¹ 鈴木直子² 椎塚詰仁² 山本和雄²

1 広尾皮膚科クリニック
2 株式会社オルトメディコ

背景

- 創傷の治癒・管理のために.....
 - 創傷の湿潤環境を保つこと
 - 余計な浸出液を除去すること

.....そのために、様々な

創傷被覆材

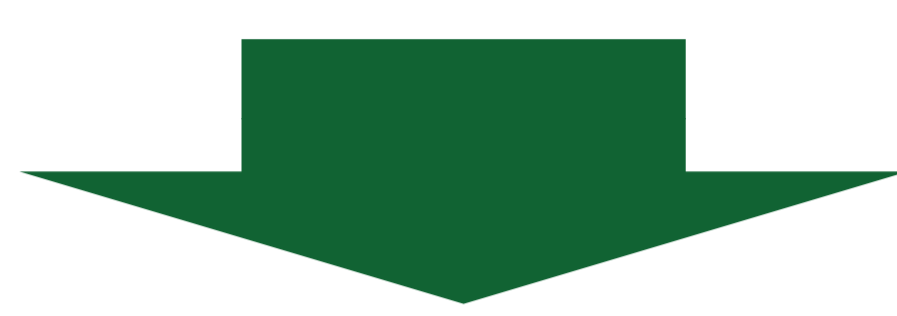
が用いられる。

ただし.....

- 創傷被覆材は高価
 - 単価が高い
 - 軽微な創は保険適用外

湿潤環境下での創傷管理は、なかなか実施できない。

安価で高機能な創傷被覆材を開発することができれば、湿潤環境下での創傷管理を幅広い症例に取り入れることが可能になる。



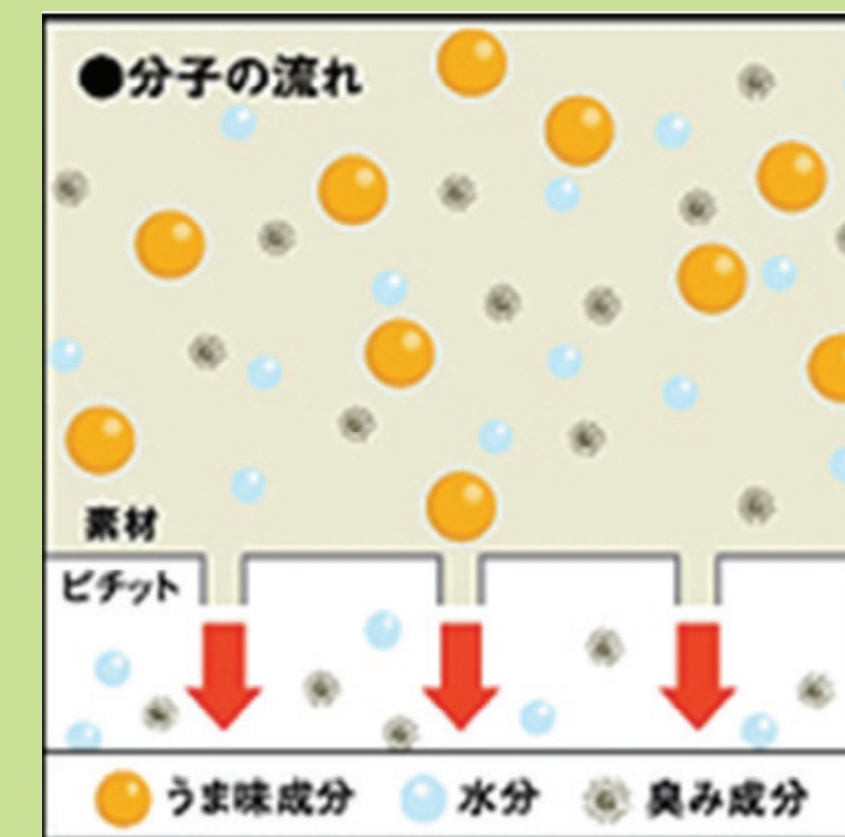
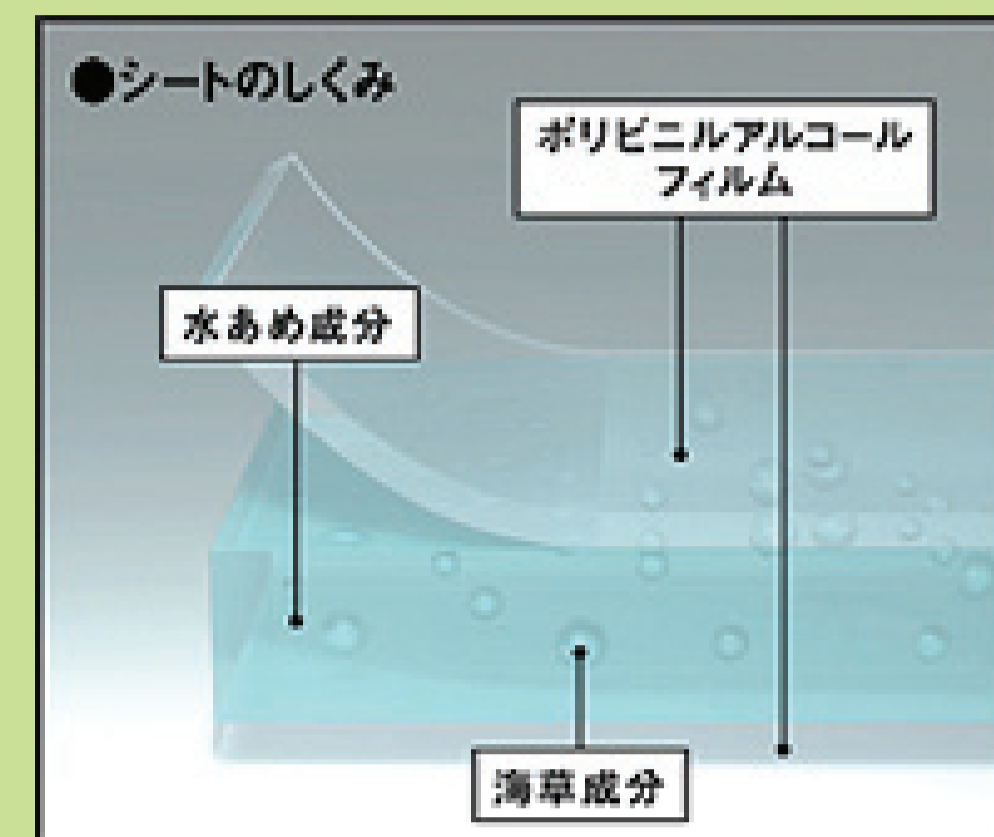
本研究では、

家庭用調理シートピチット

の創傷被覆材としての効果を検証した

ピチットとは

- 調理用の脱水シート



- 浸透圧を利用して、水分と小さな分子を吸収する
- 大きな分子は吸収しない

ピチットのこうした特徴を

創傷被覆材として利用できないか？

方法

- 試験デザイン

- 非盲検法・ランダム化並行比較試験

- 対象

- ホクロ(色素性母斑)の除去痕32個

※ ホクロ提供者

- 健康男女3名(28.7±0.6歳)
- 事前に糖尿病等の基礎疾患を有しないことを確認した。

- 試験条件

- G条件(16個)

ゲンタシンを塗布後、ショットパッチを貼布

- P条件(8個)

ピチットを貼布

- P+G条件(8個)

ゲンタシンを塗布後、ピチットを貼布

※ 以下の基準により16個のペアを作成

- 同一個人内に存在すること → 個人差の統制
- 同一部位で近くにあること → 部位の影響を統制
- 同程度の大きさであること → 大きさの影響を統制

- 検査項目

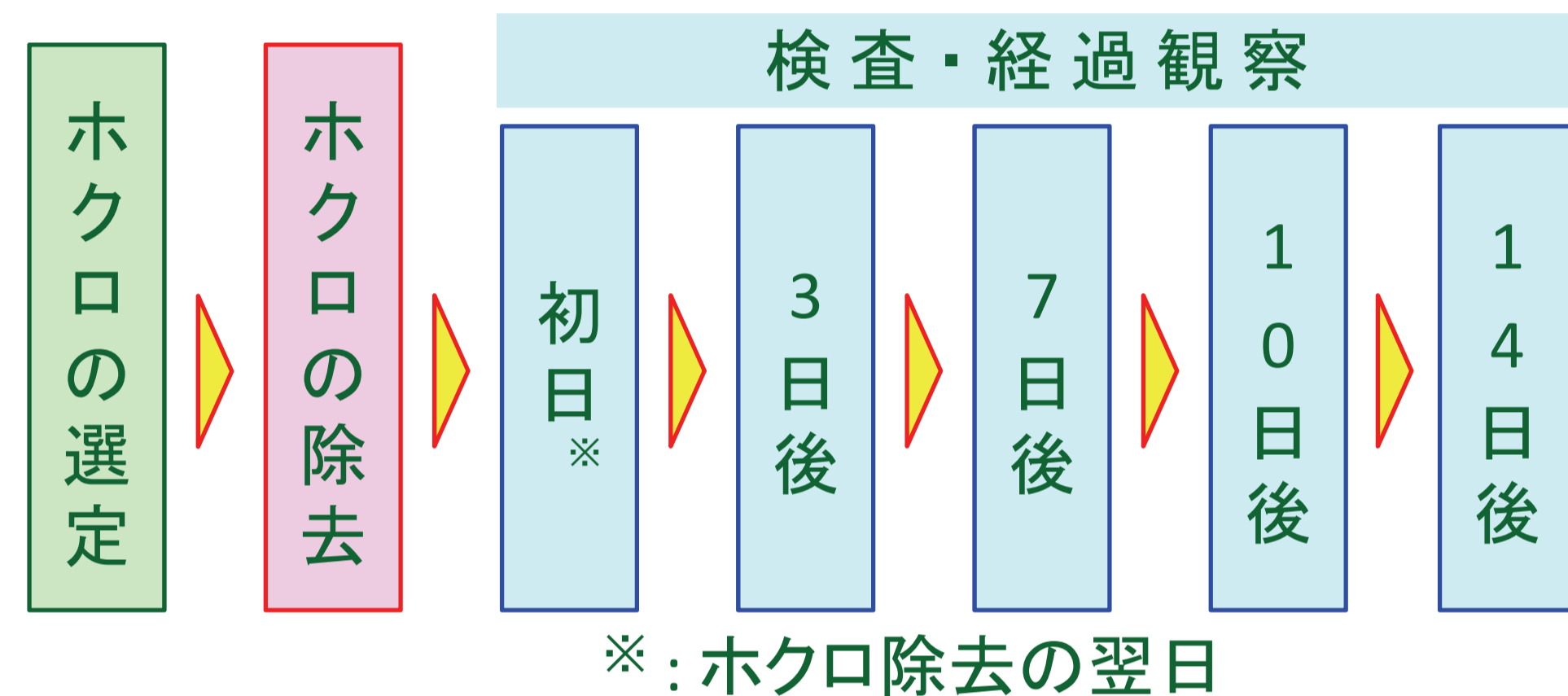
- 目視により診断し、除去痕を以下の3通りに分類
 - 痂皮未形成
 - 痂皮化
 - 上皮化

- 倫理的配慮

- ヘルシンキ宣言に準拠(1964採択, '08修正, 04追加)

- 結果の判定

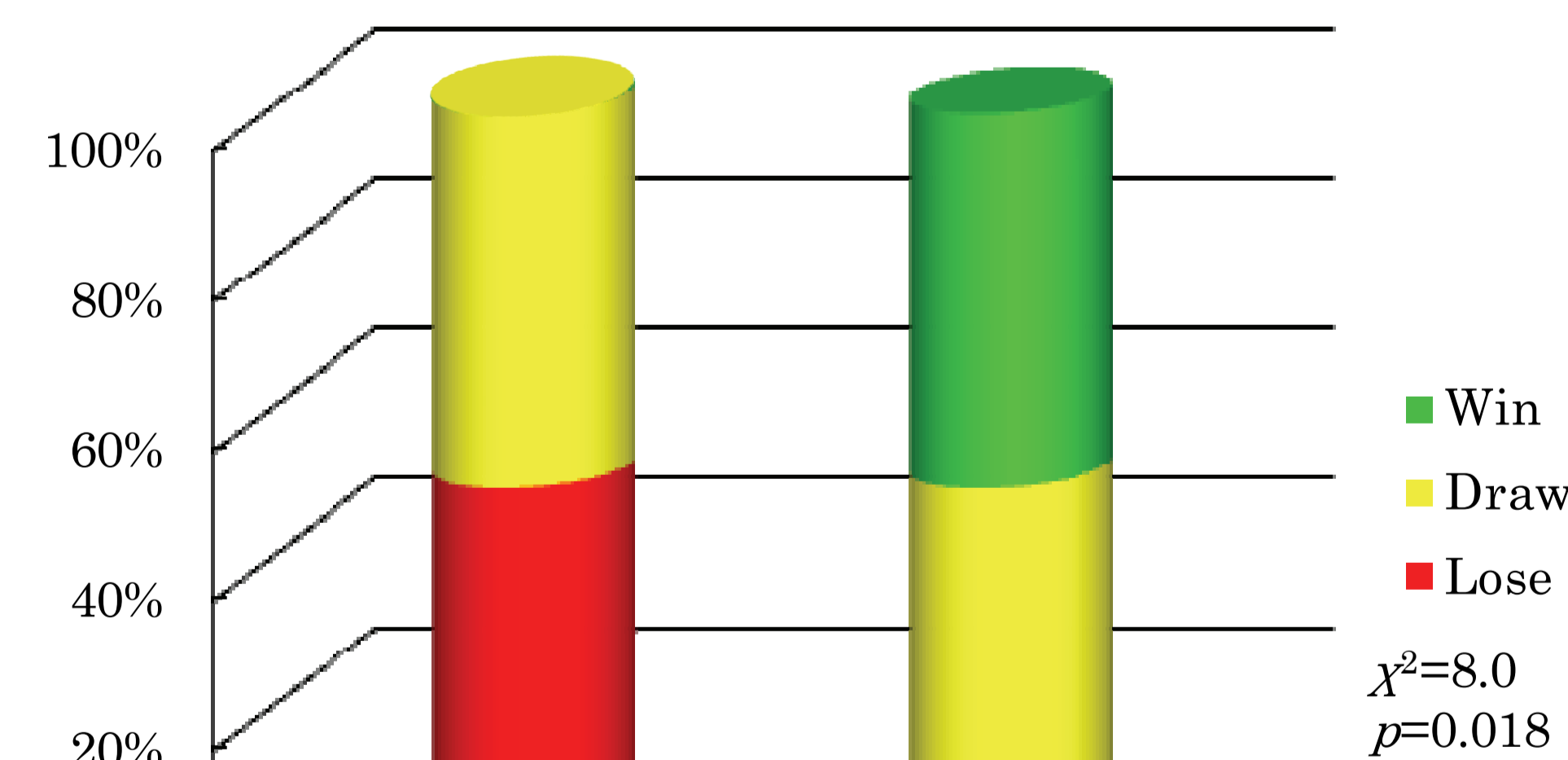
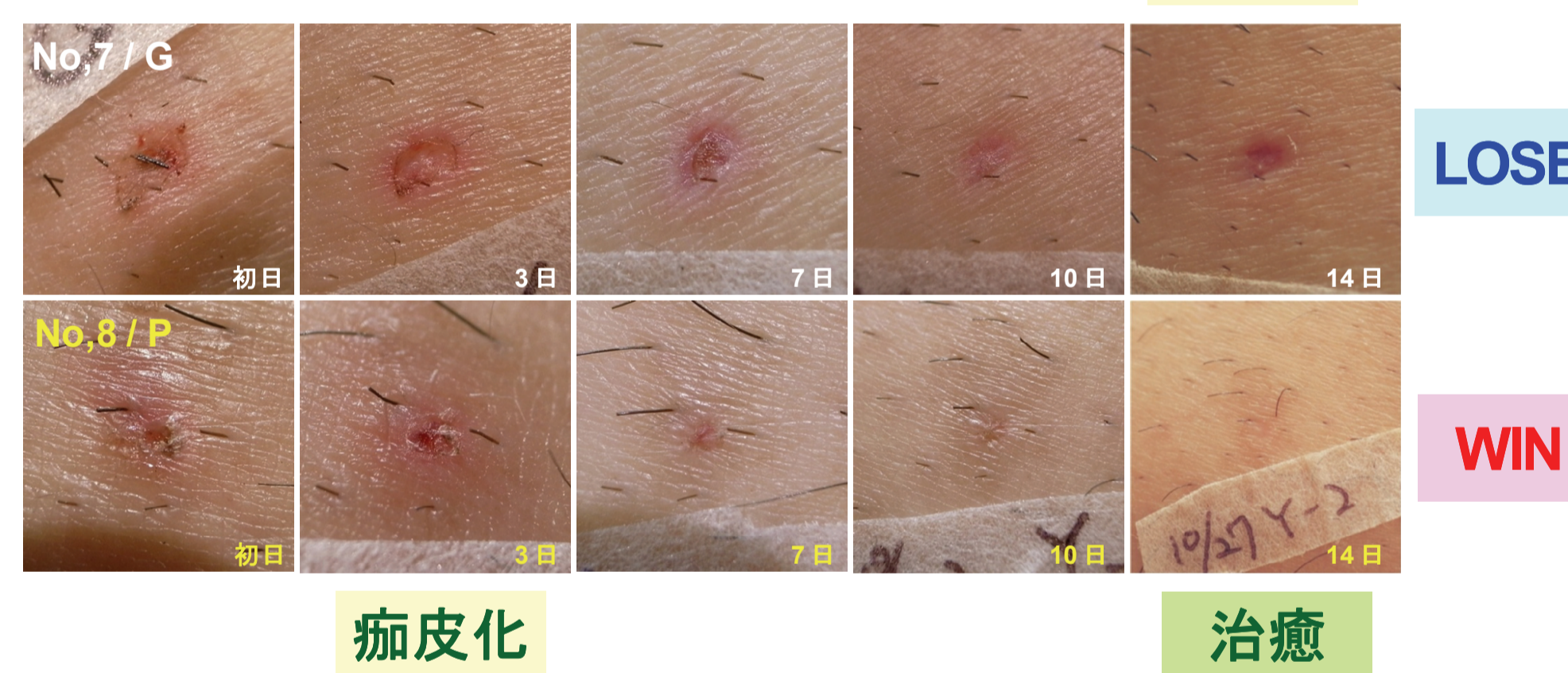
- ペアを比較
 - Win: 相手より状態が良い
 - Draw: 同程度
 - Lose: 相手より悪い
- 比較結果を条件ごとに集計



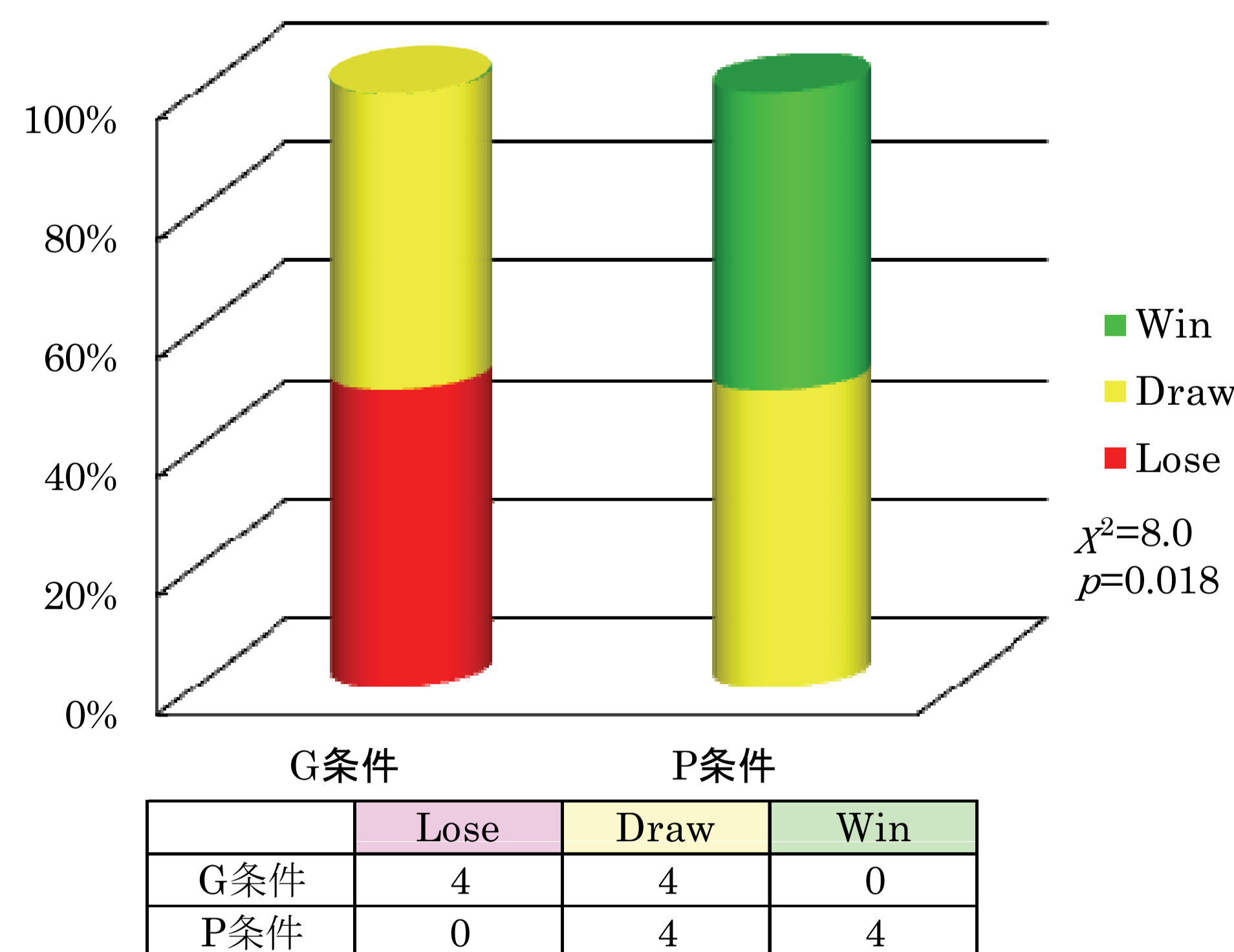
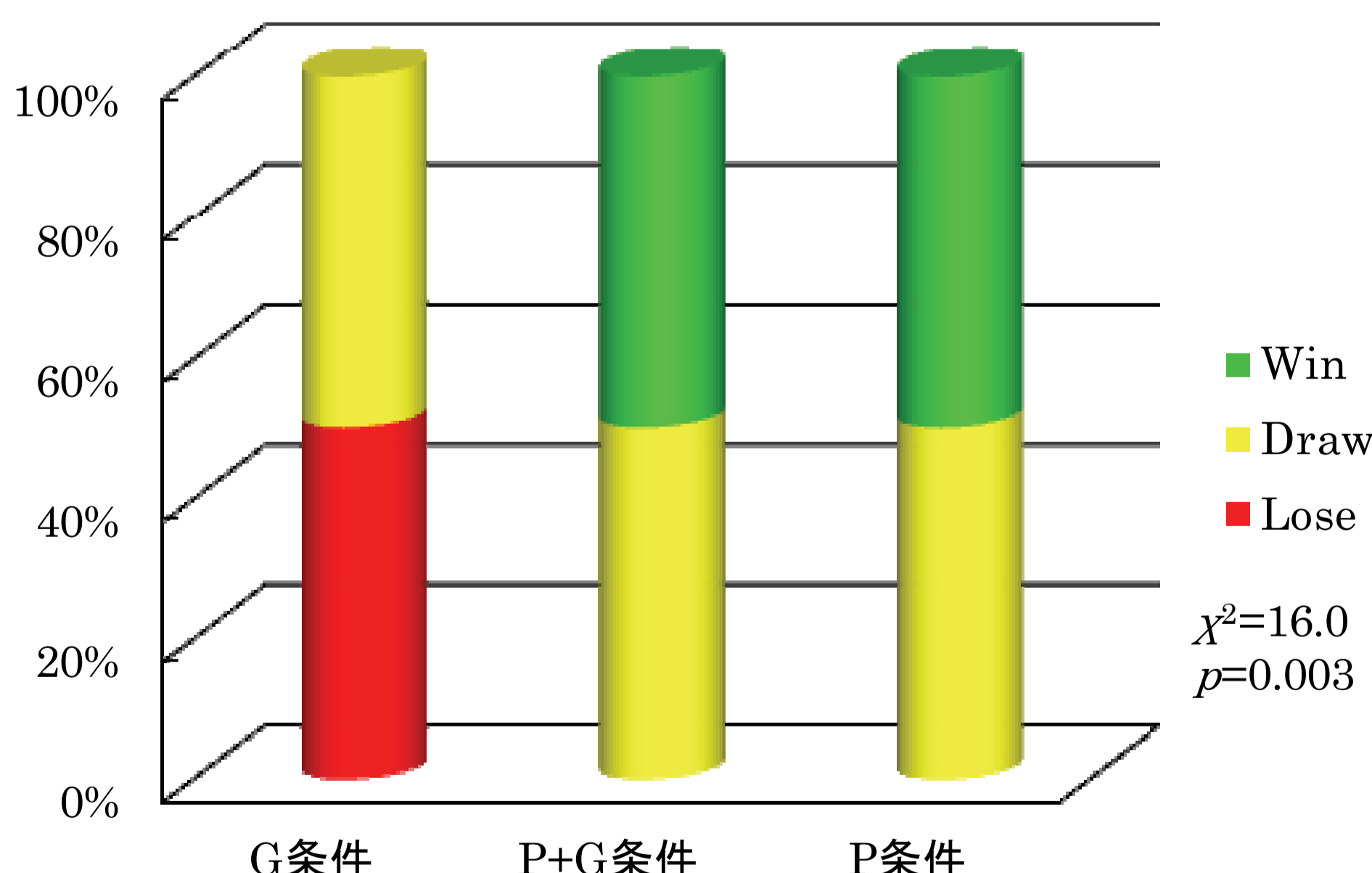
- ホクロ除去

- レーザーを照射し、真皮浅層から中層にかけて潰瘍を作成

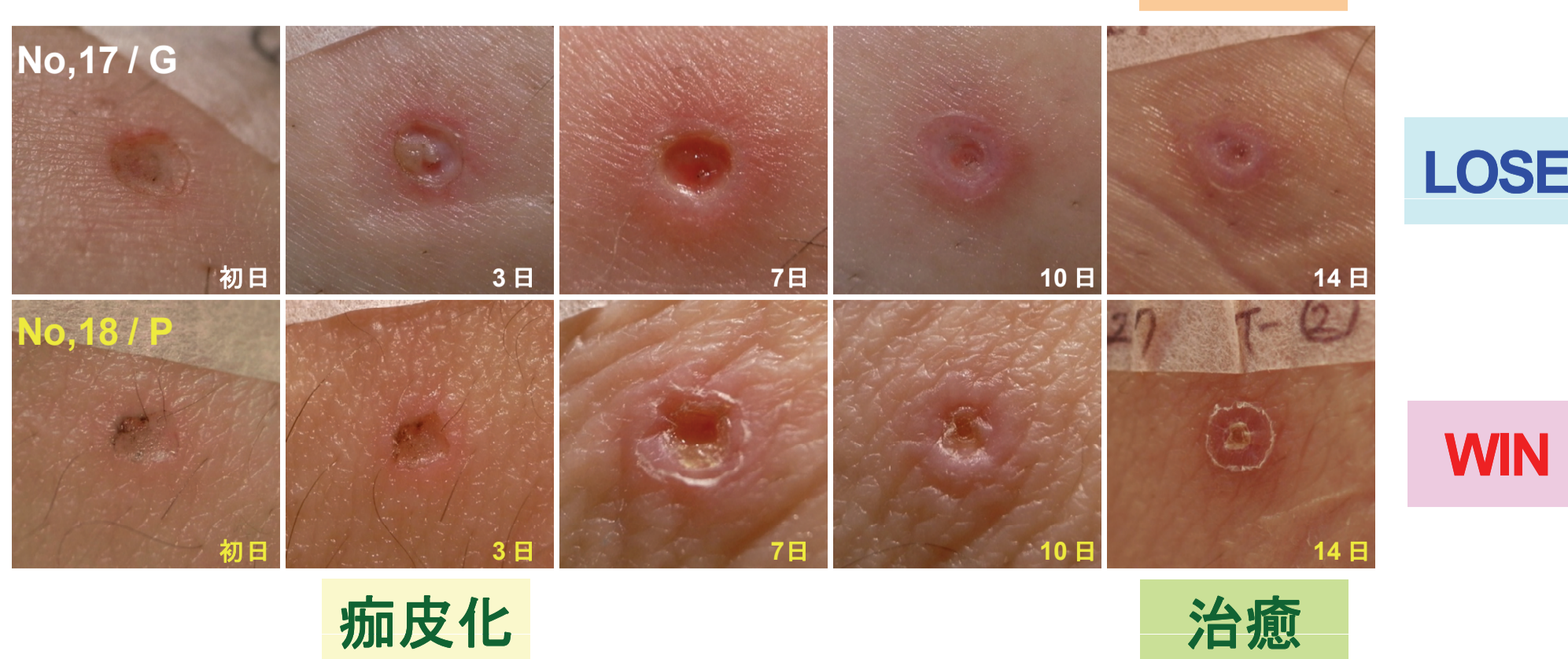
ペア④ No.7 / G & No.8 / P



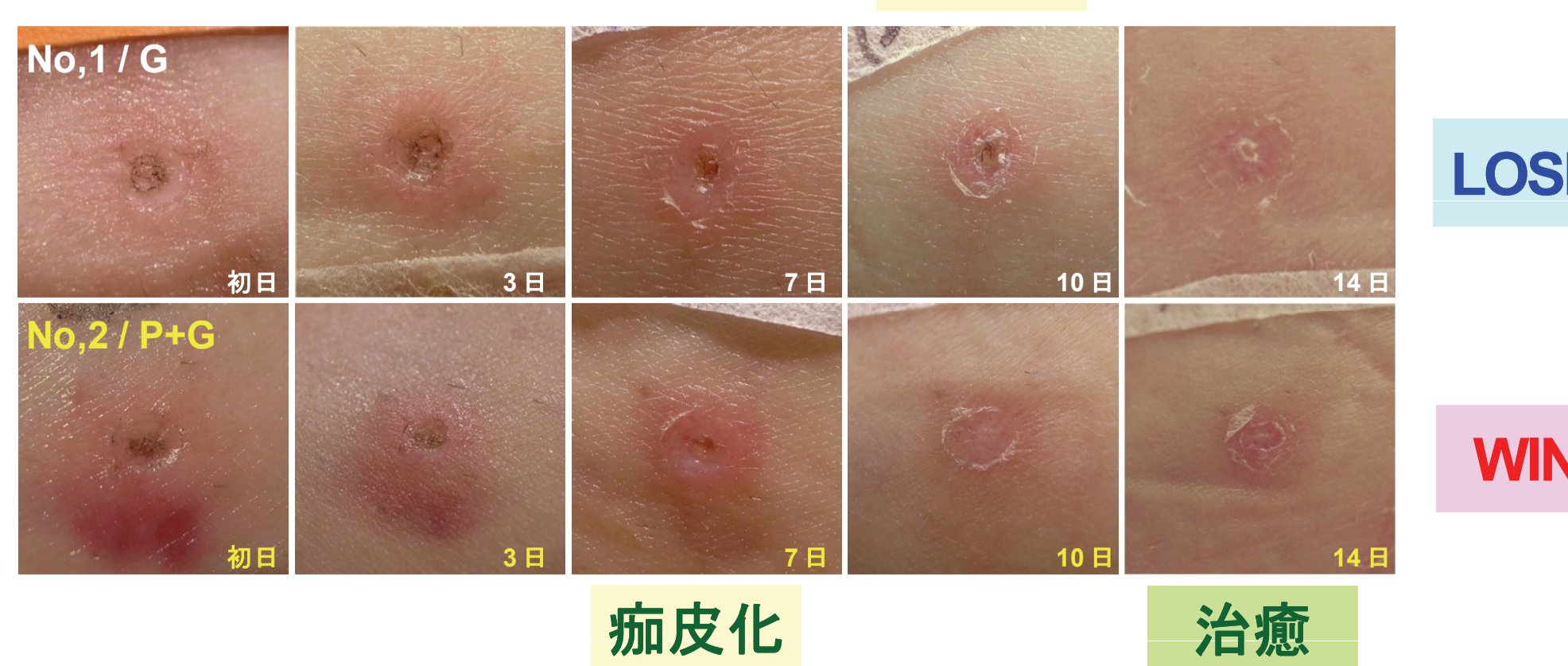
結果(抜粋)



ペア⑨ No.17 / G & No.18 / P



ペア① No.1 / G & No.2 / P+G



- P条件およびP+G条件は、G条件よりも治りが早かった。

総括

- ピチットを使用することで、従来の治療(ゲンタシン+ショットパッチ)よりも、ホクロ除去痕の治癒が促進された。
- ピチットが創傷被覆材としても有効である可能性が示唆された。